

令和8年3月18日

田原中学校区 学校運営協議会 令和7年度の活動及び課題の振り返り
田原中学校区 学校運営協議会
会長 岡村 秀雄

学校経営計画の履行については、小、中学校ともに四條畷市教育振興基本計画の基本理念に沿い校長が示した学校経営を教職員一丸となって取り組んでいる。

小学校におかれては、体力向上に関する取り組みの中のスポーツテストについて児童生徒の体力・運動能力の実態を把握する重要な機会となり遠投等ボールを投げるといった動作に課題があったが体育授業や日常的な運動機会の取り組みを図り、その結果改善が見られるなど、運動に対する前向きな姿勢の育成にもつながっている。

また、地域、保護者との連携も学校だより「田原っ子」を通じて教育活動、情報等を発信し学校の取り組みを公開していた。このような取り組みを継続する中で「地域とともにある学校づくり」が醸成されてくると考えます。

一方で今後は、教育診断テスト及びスポーツテストの結果を効果的に活用し継続的な改善につなげていくこと更なる効果が望まれると思います。

中学校においては、新しい取り組みとして学年担任制を取り入れ学級担任のみならず、学年所属の教職員が情報を共有しながら生徒一人ひとりの状況を把握し、指導、支援にあたる体制で今年度おこなった。複数の先生が生徒に関わることで多面的な視点からの支援、指導がおこなわれ、安心感や信頼感ができ、生徒間においても自主的な行動のきずきになっていることは高く評価される。

一方、教職員におかれては、教員同士の連絡、情報共有が増え時間と手間がかかるといった課題が懸念される。

学力向上の取組として実施している教育診断テストについても各教科における基礎・基本の定着状況の把握、分析結果を授業改善に反映させていた。

総じて、小・中学校の本年度の学校経営は校長のリーダーシップと明確な方向性のもと教職員が教育活動を着実に推進している姿が強く伝わり高く評価できる。

学校運営協議会としましては、地域との連携、成果や課題の整理を委員間で熟議し次年度にいかせるように取り組みながら、地域、保護者、学校がともに育つ関係づくりを構築していかなければならない。